

ロボット・テクノロジー関連株ファンド－ロボテック－（為替ヘッジあり）

第10期分配金は1,500円（1万口当たり、税引前）

2021年9月14日

平素は、当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2021年9月13日に決算を迎え、当期の収益分配金（1万口当たり、税引前。以下同じ。）を1,500円と致しましたことをご報告申し上げます。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当ファンドの分配方針は以下のとおりとなっています。

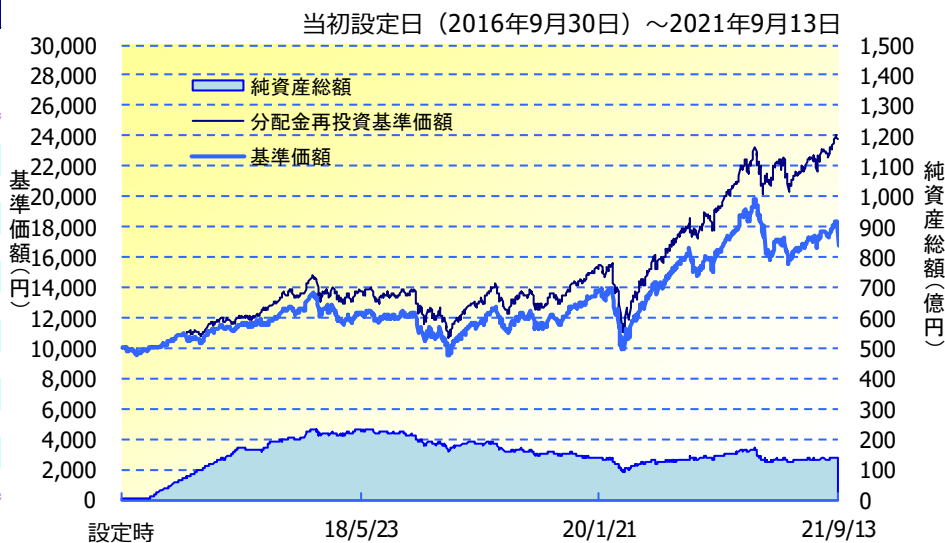
- ①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。
- ②原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社（大和アセットマネジメント）が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

基準価額・純資産の推移(2021年9月13日現在)

基準価額	16,694 円
純資産総額	125億円

《分配の推移》		
(1万口当たり、税引前)		
決算期(年/月)	分配金	
第1期 (17/03)	450円	
第2期 (17/09)	450円	
第3期 (18/03)	400円	
第4期 (18/09)	0円	
第5期 (19/03)	0円	
第6期 (19/09)	0円	
第7期 (20/03)	0円	
第8期 (20/09)	750円	
第9期 (21/03)	1,800円	
第10期 (21/09)	1,500円	
分配金合計額	設定来：5,350円	



※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
 ※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
 ※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※ 以下のコメントは、アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するコメントを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。
 ※ 現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

当期の投資環境：グローバル株式市場は上昇

世界の株式市場は、期初は、米国での追加の経済対策への期待感や、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展などが支援材料となり、底堅い推移となりました。期中は、インフレ懸念の台頭、金融緩和縮小の早期化観測、デルタ株の感染拡大などから一時的に調整する場面はあったものの、期末にかけては、良好な企業業績の発表や米国の早期の利上げ懸念の後退などが支援材料となり、高値を更新しながら、上昇基調で推移しました。

当期の運用経過：半導体やヘルスケア関連の銘柄がけん引して上昇

当ファンドの基準価額は、主に米国の保有銘柄が値上がりしたことなどから、上昇しました。当ファンドのパフォーマンスは、サプライチェーンの混乱により半導体関連銘柄が下落した影響などを受けて、期の前半は、代表的な世界株式の指数に対して劣後する局面もありましたが、2021年5月半ば以降は、好調な四半期業績を発表した銘柄群などがけん引して、堅調に推移しました。個別銘柄では、半導体のエヌビディアやアドバンスト・マイクロ・デバイセズ（AMD）、手術支援ロボットの需要回復が見込まれるインテュイティブサージカル、糖尿病患者向けの適用拡大が期待されるデクスコム、グーグルなどの企業の持株会社であるアルファベット、四半期業績が好調であったキーエンスなどが堅調に推移し、パフォーマンスに貢献しました。

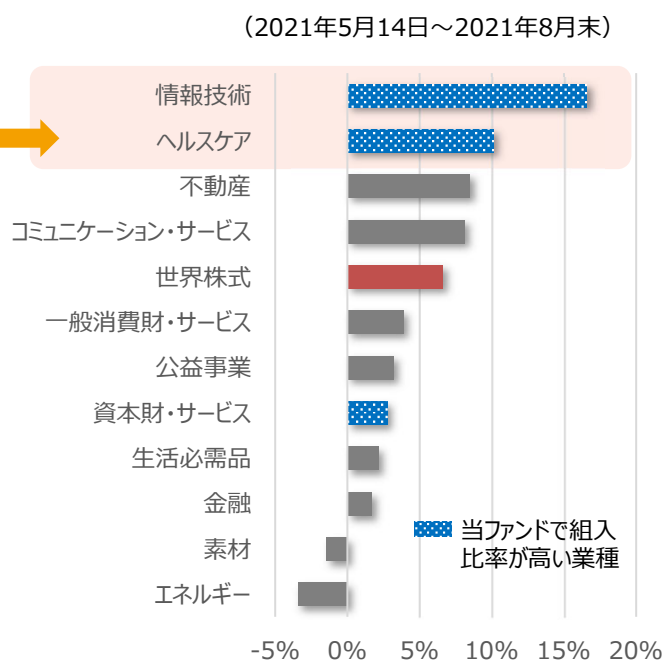
「ロボテック」と世界株式のパフォーマンス比較



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述の「ファンドの費用」をご覧ください)。※「世界株式」はMSCI ACWI Index(現地通貨ベース)を使用しています。MSCI ACWI Indexは、前営業日の指数値を基に算出しております。当ファンドのベンチマークではありません。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) ブルームバーグ

世界株式の業種別パフォーマンス



※世界株式・業種別指数はMSCI ACWI Index(ドル建て)を使用しています。また、当ファンドのベンチマークではありません。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) ブルームバーグ

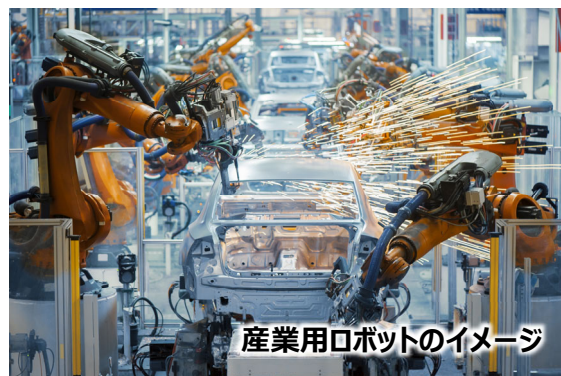
構造変化を捉えた長期的な投資機会に注目

当ファンドでは、構造変化がもたらす需要拡大から長期的な成長が見込まれるロボット・テクノロジー関連銘柄に注目して投資を行っています。新型コロナショックの影響により、様々な分野でロボットの導入機会が拡大していることや、イノベーションや自動化の流れが加速していることも、当ファンドの注目テーマに対する強気な見方のサポート要因です。

半導体や自動化関連銘柄への強気な見方は継続

半導体は、5GやIoT、人工知能や自動運転など、これから起こるさまざまなイノベーションにおいて中心的な役割を果たす存在であり、莫大な需要が半導体市場の成長をけん引していくことが予想されています。自動化関連では、先進国を中心とする労働人口の減少や、高齢化社会の到来、新興国での賃金上昇などの構造変化が、自動化関連銘柄への需要を押し上げるとみています。5GやIoTの普及に伴い、製造ラインが完全に自動化されたスマート工場への取り組みなども進んでおり、ロボット・テクノロジーや自動化分野では、更なる成長機会やビジネスの可能性が期待されています。

また、当ファンドでは、高い成長が期待できる中小型銘柄の発掘にも注力しています。自動化関連銘柄では、2021年3月に、米国のソフトウェア企業アルテアエンジニアリングの組み入れを開始しました。



注目銘柄のご紹介

アルテアエンジニアリング（米国/ソフトウェア・サービス）

概要

- アルテアエンジニアリングは、ソフトウェアを用いたシミュレーションによる設計技術を提供。
- 自動車や航空機などの設計に用いられるシミュレーション技術により、デジタル環境での製品テストや実際の試験走行を行う前の設計見直しを可能とする。
- 大幅なコスト削減や安全性・信頼性の向上、新製品投入までの期間短縮に貢献。

株価の推移



※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。

需要回復が期待される手術支援ロボット

当ファンドでは、患者の体への負担を抑えつつ、手術の安全性も高めるロボット手術への需要は、中長期的に底堅く推移すると予想しています。対応可能な病気が増えていることに加えて、新興国での導入拡大も見込まれることから、有望な成長分野であるという見方に変わりはありません。また、ロボット手術は、非常に高い安全性を求められる分野であり、当ファンドで注目する銘柄群の優位性は継続するとみています。

当期は、新型コロナウイルスの感染拡大のペースが鈍化し、ロボットによる施術件数にも回復が見られたなか、手術支援ロボット関連銘柄は、良好なパフォーマンスとなりました。大幅上昇となった銘柄は一部利益確定を行い、組入比率を調整しました。今後、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大が深刻化する場合には、緊急性の高い治療が優先されて、ロボット手術も再度先送りされる可能性があることから、今後の医療現場の動向を注視して行く方針です。

ヘルスケア関連の銘柄では、当期は、歯科矯正用の3Dデジタルスキャナーなどを提供する米国のアライン・テクノロジーの組み入れを開始しました。



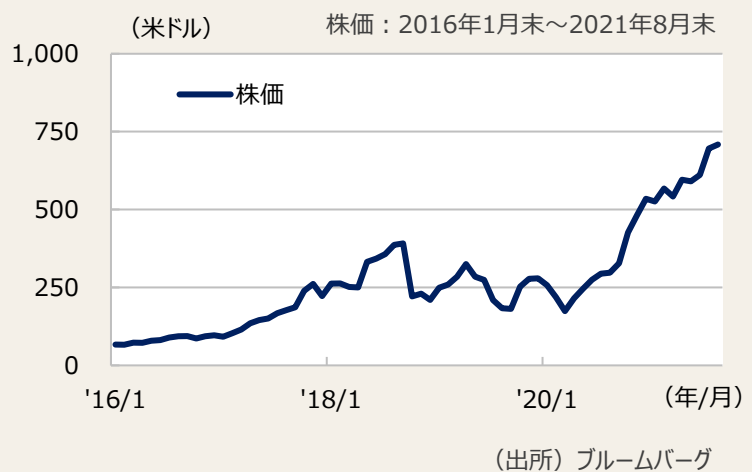
注目銘柄のご紹介

アライン・テクノロジー（米国/ヘルスケア機器・サービス）

概要

- 歯列矯正用の3Dデジタルスキャナーや透明なマウスピース型矯正装置（アライナー）を製造。
- AIや3D技術を用いた歯科治療へのデジタル・アプローチによって、患者の歯型に合わせたカスタムアライナーを作成。
- 歯列矯正市場に変革をもたらしており、市場シェアの拡大が期待されている。

株価の推移



※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。

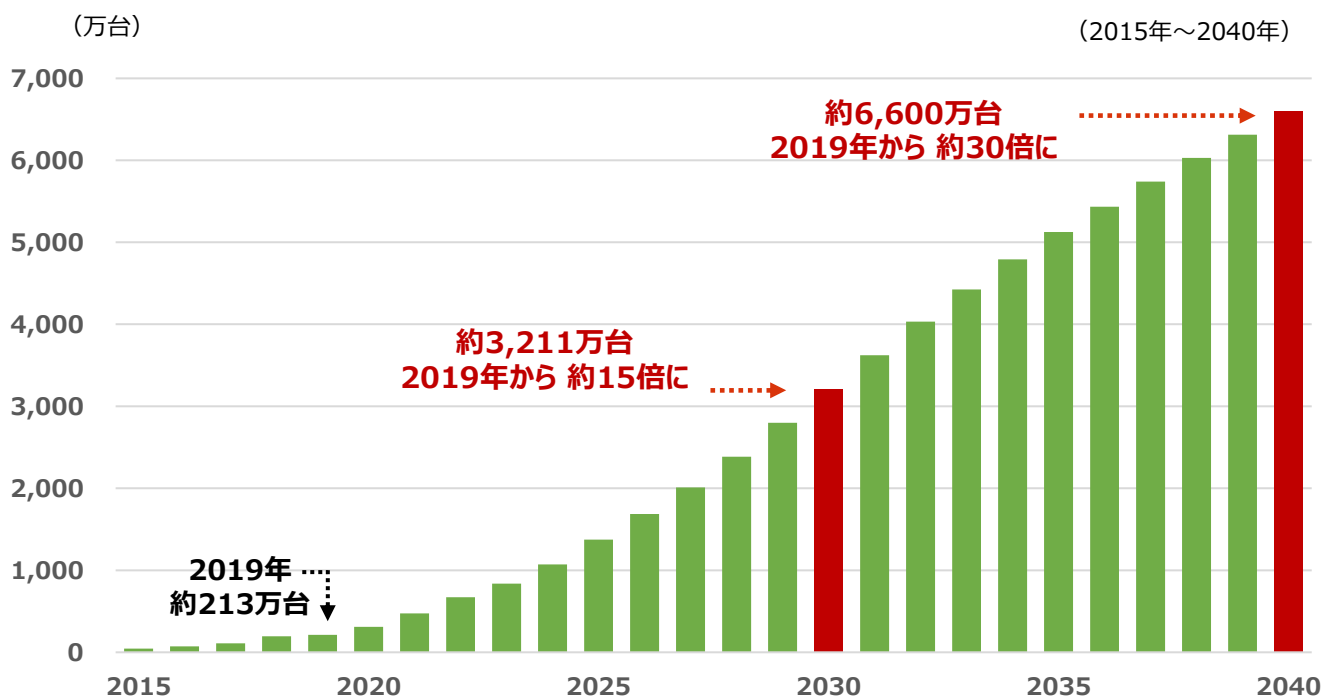
産業用ロボット、EV関連にも注目

世界経済回復の恩恵を受けて、産業用ロボットへの見通しが改善しています。日本工作機械工業会によれば、日本の7月の工作機械受注額は前年同月比93.4%増の1,349億円でした。9カ月連続で前年実績を上回っており、単月としては2018年12月以来の高水準となりました。国内外で設備投資が拡大していることが背景にあり、特に半導体、自動車などの業種において活発になっています。米中貿易摩擦により手控えられていた投資や、コロナ禍で先送りされていた投資などが実現化し、今後の受注回復を押し上げることが期待されます。

また、脱炭素社会の実現に向けて、各国で電気自動車の普及が推進されていますが、これらの動きは、産業用ロボット業界には追い風になると考えています。電気自動車の基幹部品は、ガソリンエンジン車とは異なっており、バッテリーやモーターなどには大規模な設備投資が見込まれています。自動車業界の各社は、ガソリン車の新車販売が実質的に禁止に向かい、電気自動車化が進んで行く中で、生き残りをかけた戦略の見直しが求められています。他社に先んじて市場シェアを獲得するためにも、今後数年以内に設備投資の意思決定が進んでいくと予想されることから、ロボット・自動化関連企業にとって、注目材料になると考えています。



世界のEV販売台数予測



※2021年から予想値。

(出所) ブルームバーグNEF

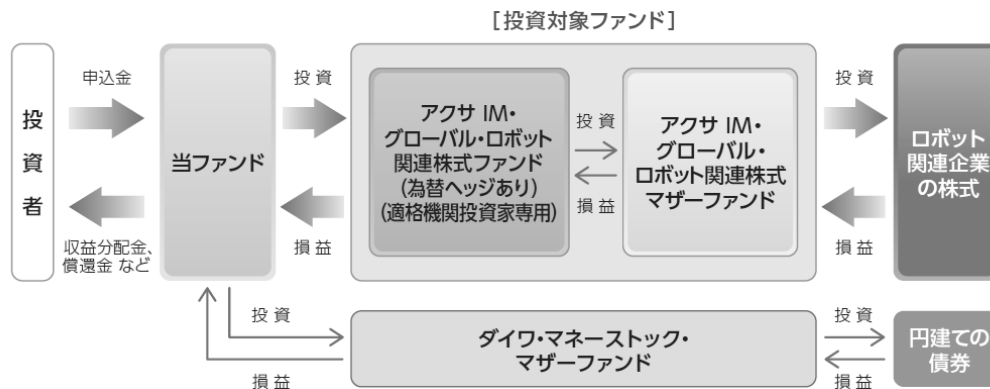
I ファンドの目的・特色

ファンドの目的

日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資します。
※株式…DR（預託証券）を含みます。
※当ファンドにおけるロボット関連企業とは、ロボット・テクノロジーの開発や製造などにより、ビジネスを展開する企業を指します。
2. 株式の運用は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが担当します。
3. 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、ロボット関連企業の株式に投資します。



投資対象ファンドについて

- ◆アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下「ロボット関連株式ファンド」といいます。）は、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が設定・運用を行いません。
 - ◆株式の運用の指図に関する権限を、アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドに委託します。
※アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドは、アクサ・インベストメント・マネージャーズのロンドン拠点です。
-
- ◆「ロボット関連株式ファンド」への投資割合を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。
 - ◆「ロボット関連株式ファンド」は、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。
※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
 - ※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
 - （注）一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があります。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「特定の業種への集中投資リスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があるため、為替変動の影響を受けることがあります。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.3%（税抜3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.2375% （税抜 1.125%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.5775% （税抜 0.525%）	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.815%（税込）程度	
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

加入協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

ロボット・テクノロジー関連株ファンド –ロボテック– (為替ヘッジあり) 取扱い販売会社

販売会社名 (業態別、50音順) (金融商品取引業者名)	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会	
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○	○		
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○	○		
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第61号	○			
株式会社但馬銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第14号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○	○		
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○	○		
株式会社北洋銀行 (委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社)	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○	○		
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
岡三にいがた証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第169号	○			
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
島大証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第6号	○			
GMOクリック証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第77号	○	○		○
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
西日本シティ証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
野村証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
豊証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第21号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。